

福島ロータリークラブ会報

vol. **28**
2018.3.8 thu



ロータリー：
変化をもたらす

<http://www.f-rotary.com/>

【事務所】福島市栄町5-1 ホテル辰巳屋 7F 【例会日】木曜日 12:30
【TEL】024-524-1010 【FAX】024-524-1011
【mail】f-rotary@guitar.ocn.ne.jp info@f-rotary.com

TODAY'S PROGRAM

2017-18 RI 会長 イアン H.S. ライズリー

- RYLA 研修発表 SMBC 日興証券(株)福島支店 ^{きょう}京 ^{けいご}佳吾 様 ^{いりえりくたろう}入江陸太郎 様
- 会員スピーチ 福島民友新聞(株) 代表取締役社長 五阿弥宏安 会員

会長あいさつ



2017-18 年度会長 森岡 幸江

3月に入り、まさしく三寒四温、暖かかったり、冷たい風が吹いたり、変わりやすい天候が続いております。お身体をご自愛くださいませ。

前回の例会は欠席となり、右近副委員長に議事を進めていただき、有難うございました。

3/2(金)は、箱岩青少年奉仕委員会委員長と福島東稜高等学校を訪問し、優良インターアクター9名の方に、認定書と記念品を贈呈しました。福島東稜高等学校は、「真心をもって人に接し人の立場を考えて行動できる明るく役立つ人間」を建学の精神に、教育方針に国際教育の推進を掲げていらっしゃいます。

そのような経緯から、当クラブは福島東稜高等学校にインターアクトクラブを提唱しております。インターアクトクラブのメンバーは、海外への支援活動、猪苗代湖の水草除去活動や募金活動への参加、インターアクトクラブの大会の実施、協力を行いました。その活動をたえるとともに、在校生の方にも入会を呼びかけました。

3/3(土)は、中央RC主催「あれこれなんでも相談会」が開催され、菅野晴隆会員事業所の伊豆弁護士さんにご協力を頂きました。有難うございました。スタート時間前から並ぶ方もおり、毎年事業を継続することで、市民の方からも認知されているのだと、感心しました。

3月理事会の議事録を配布しておりますので、ご覧ください。また、4月のプログラムは、福島北RCとの合同例会で火曜日開催や、競馬場訪問例会がございますので、日程会場をご確認下さい。

6月の東京交歓会のご案内も配布しております。この会は転勤で東京に戻られた会員の方と交流を図るべく毎年6月に開催しております。ご参加をお待ちしております。

本日は、2/24(土)・25(日)に開催されたライラ研修

例会次第

開会点鐘 森岡幸江 会長

ロータリーソング

「我等の生業」

ソングリーダー 菅沼 裕 会員

お客様並びに来訪ロータリアン紹介

SMBC 日興証券(株)福島支店

^{きょう}京 ^{けいご}佳吾 様
^{いりえりくたろう}入江陸太郎 様

退会あいさつ

茂木正志 会員

会長あいさつ

森岡幸江 会長

食事

幹事報告

相良元章 幹事

各委員会報告

●プログラム・ニコニコBOX小委員会
ニコニコBOX担当

丹治正博 小委員長

◎本日のプログラム

開会点鐘

森岡幸江 会長

例会変更のお知らせ

●当クラブ、来週15日は18時30分より、ホテル辰巳屋にて創立記念夜間例会となります。

その他のお知らせ

●3月ロータリーレートは1ドル108円となりますのでお知らせ致します。

●4月プログラムのご案内を差し上げております。分区行事が多くございますので、是非ご参加のほど宜しくお願い致します。

会に参加された、SMBC 日興証券(株)福島支店の京さん、入江さんより発表をしていただきます。

その後、五阿弥会員のスピーチを拝聴します。



SMBC 日興証券(株)

きょう けいご
京 佳吾 様

2月24日(土)・25日(日)の2日にわたり、RYLA研修に参加させていただきありがとうございました。また、このような場にお招きいただきありがとうございます。RYLA研修を通じて、貴重な経験をさせていただいた点が2点ありました。

まず1点目が、今回の研修会では「リーダー」というテーマに対し、グループワークを通してその課題に向き合いました。言葉では聞いたことがあったり、ある程度の意味は理解しておりましたが、深く考えたことがなかったので、リーダーについて意見交換できたことで私自身の考えも変わりました。会社では、2年目ということでリーダーとは程遠いと感じておりましたが、若手からリーダー意識を持つことでプラスに還元できることもあると考えさせられた時間でした。

2点目が、私ども証券会社は皆様のような方々とお仕事させていただく機会が多く、今回の研修のように同年代の他業種の方々と接する機会がないので、同年代の方々と意見交換できたことも貴重な時間でした。意見交換してみると、意外と感じている部分が重なっており、業種に関係ないと感じました。

今回の研修で「リーダー」について話し合う中で、実際に「リーダー」として働かれている方々からの講話がありました。3名の方からのお話がありましたが、皆様今回の研修会のように業種が全く異なる「リーダー」でした。しかし、共通している点があり、深く印象に残っております。それは、相手に伝える能力に長けている点です。感情を全面に出して伝えること、ユーモアがあり、普通は考えしないうええ方、抑揚をつけて伝えるなど、伝え方はそれぞれ異なりますが、聞き手になってみると、どの講話も聴き入ってしまう伝え方でした。

今回学んだ相手に伝えることの大切さを、さっそく本日活かす場がめぐってきましたが、うまく伝えられているか不安であります。しかし、皆様の前で発表をさせていただくというかなり貴重な体験をさせていただきありがとうございます。この経験を活かしていければと思います。ありがとうございました。



SMBC 日興証券(株)

いりえ りくたろう
入江 陸太郎 様

先月、24日(土)・25日(日)の2日間にわたって、郡山ビューホテルにて第38回RYLA研修会が行われました。私も福島RC様より御紹介いただき、参加することとなりました。

RYLA研修では次世代リーダーの育成を主題に、福島全県から18～35歳程度の若者が集まり、講師の方のお話を聞いたり、リーダーシップに関するグループワークを行ったりして、見識を深めました。

私は転勤族ですから、中小他社、他業種の同年代と話す

機会というのもあまりなく、そういった交流も含めて非常に貴重な2日間を与えていただけたと思っております。ありがとうございます。

さて、大変貴重で濃密な2日間でしたが、特に今後の参考になったと感じたのは講師の方による講演です。私はその講演で「伝え方」というのをより意識しました。リーダーたるもの人の前に立ち、人を惹きつけられなければなりませんから、「伝え方」ということは非常に大事です。そういった「伝え方」について話していただいた講師は、福島を代表する詩人の和合さん、アポロガスの社長篠木さん、福島テレビの元アナウンサー高橋さんでした。

3名とも詩人や経営者、アナウンサーと仕事は違いますが、皆様言葉のプロフェッショナルです。他人に注目してもらえる話し方というものを講演の内容や話し方などから学ばせていただけました。またグループワークではリーダーシップのある人というのはどういった人なのかについて話し合いました。グループによって若干の差異はありましたが、概ねして周囲を引っ張る率先力や周りを見渡せる観察力、まだ未来を見通せる洞察力などが求められるという内容でした。ただ、リーダーシップというのは机で勉強すれば備わるものではございません。

その為には何事も経験が大事です。今後このような場で話す機会をいただいたことも含めて、RYLA研修という貴重な経験を踏ませていただいた福島RCの皆様へ改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

(株)辰巳屋

おおば こうへい
大庭 岬平 様

このライラ研修に参加するにあたり私は同年代の方が多研修とはいえ、グループディスカッション等でほかの方々と意思疎通が出来るかどうかとても不安だった。だがそれは杞憂でとても意義のある研修として、自分を成長させてくれた。

研修のプログラムは、「福島から言葉の橋を架けたい」「福島が笑えば世界が笑う」「知れば開ける伝え上手聞き上手」という3つの講演から始まり、グループディスカッションをするという流れだった。

言葉の橋を架けたいという講演では、子から親への17文字のメッセージや東日本大震災の避難誘導についての講演だった。

言葉やメッセージというのは、つたない文章等でもその人に向けた心があれば十分に伝わるということを再認識させられた。

「福島が笑えば世界が笑う」という講演はアポロガス独特の新人研修では様々な取り組みが行われ、それぞれは社員がいかに楽しく働けるかということを重きにおいていた。人生の半分は仕事なのでせっかくやるなら楽しくというスタンスに胸をうたれた。

最後に、「知れば開ける伝え上手聞き上手」では相手の意見や言葉に相槌などをうち相手に心を開いてもらうことで意思疎通を図りやすくなるということを学んだ。

グループディスカッションでは、リーダーシップ(リーダーに必要な条件)とは何かということ、Bグループの

方々と議論した。

議論にあがったリーダーとしての能力は

- 自分の意見を如何にわかりやすく伝えられること
- 下の者がミスをして責任をとれること
- ぶらさないとはぶらさず、譲れるとは譲る臨機応変な対応
- 下の者に指示する際は、その人の本質や性格を見抜き適切な配置ができること

人の本質や性格を一朝一夕で見抜くのは至極困難であ

り、下の者がミスをしてしまっても、相談が出来ない環境になってしまうと報告のタイミングを逃してしまうかもしれない。

そうならないようにリーダーとして必要なことは、やはり常日頃からコミュニケーションを大切にし、働きやすい環境を整えることが大事だ。

私はこの研修を通して、人とのコミュニケーションを大事にしどんな小さな事でも相談しやすい環境づくりと、自分の指示を受け取って貰いやすくするように考え行動していきたいと思った。

■ 会員スピーチ



福島民友新聞(株)
代表取締役社長

五阿弥 宏安 会員

人生 100 年時代を生きる

最近、「人生 100 年時代」という言葉をよく耳にするようになった。きっかけは世界的ベストセラーとなった「ライフシフト」という本の存在が大きい。著者のイギリス人、リンダ・グラットン教授は安倍首相肝いりの「人生 100 年時代構想会議」のメンバーにも起用された。驚くのは日本語版序文である。「日本で 2007 年に生まれた子どもの半分は 107 歳まで生きる」と書かれている。

人生 100 年時代という「自分はそのままで生きない」と思う人が多い。しかし、現実には百寿者が急増している。100 歳以上の高齢者は今や 7 万人近い。しかし、統計を取り始めた 1963 年当時はわずか 153 人だった。政府は 100 歳に達した人に銀杯を贈っていたが、一昨年から数が多く予算が足らなくなったとして銀メッキの杯に変えた。

現在の平均寿命は男性が 81 歳、女性は 89 歳で世界トップクラスだ。昔から日本は長寿だったと勘違いする人がいるが、実は一昔前までは短命社会だった。男女両方の平均寿命が 50 歳を超えたのは戦後の 1947 年である。その時、北欧はすでに 60 代だった。日本は経済同様、欧米に追いつけ、追い越せであったという間に超高齢社会となった。問題は日本の場合、スピードが速すぎる。ヨーロッパは 1 世紀程度かけて高齢社会に到達したが、日本はわずか 20 年余りで高齢社会に突入した。制度も意識も、高齢社会仕様となっておらず、高齢者の活躍を活かす場も制度も意識もまだ乏しい。

かつての「人生 50 年」という昔でも 70 代や 80 代、90 代まで生きた人はいた。例えば葛飾北斎は 90 歳近くまで、能楽を総合芸術の域にまで高めた世阿弥は 80 歳まで、日本の正確な地図をつくった伊能忠敬は 56 歳で隠居したあと、測量学を学び、73 歳まで地図を作り続けた。しかし、昔の長寿者は数が少なく、しかも死ぬまで現役だった人だ。病気などをした人は永らえなかった。

昔は介護の期間も短かった。研究者が江戸時代の長野県の村を調査したところ、嫁姑の 2 世代同居期間の平均は 8 年、孫を加えた 3 世代同居期間は 5 年しかなかった

という。それが現代は 30 年程度に伸びている。今は 70 歳の娘が 100 歳の母親の世話をする「老々介護」など珍しくなくなった。当事者にとっては大変な負担であろう。深刻な現実から介護保険制度が生まれた。家族ではなく、社会で高齢者を介護するという思想だ。

寿命が伸びることは本来、喜ぶべき事だが、気になることもある。今なお、「高齢は病み衰えた人」という誤った考え方が根強いことだ。「おじいちゃん」「おばあちゃん」との呼びかけや「ハイ、お注射ですよ」など高齢者に対する子供扱いもまだ目に付く。しかし、実際には年を重ねるほど、個性も多様となる、個体差も大きくなる。80 歳過ぎてもゴルフをやる人は多いし、中にはスキューバダイビングに挑戦したり、世界一周旅行が趣味という人もいる。

昨年 1 月、日本老年学会が高齢者の定義を「65 歳以上」ではなく「75 歳以上」に見直そうと提言し、大きな話題となった。背景には、高齢者の身体能力や認知能力などがこの 2,30 年間で 5 歳から 10 歳も若返っているからだ。

年齢にとらわれず、やる気と能力のある高齢者を活用しようという動きも広がってきた。定年を 70 歳超に引き上げた大企業や 90 歳超の女性社員を活用する大手化粧品会社、高齢者だけを採用する企業、そして定年後に起業するシニアも増えている。

それで思い出すのは、105 歳まで現役医師とした活躍した聖路加病院名誉院長だった日野原重明先生だ。2 度インタビューしたことがあるが、最期まで臨床の現場で患者を励まし続けた。その日野原先生は 59 歳の時によど号ハイジャック事件に遭遇し、死を覚悟した。幸い解放されたが、「一度は死んだ身」と思い、以後の人生は「社会のために働く」と誓ったという。

今の日本社会では「老後不安」の声が高まっている。いったい自分は何歳まで生きるのかわからないという不安感が、消費を縮ませている。「老後不安」が日本経済に大きな影を落としている。若者が老後のための貯蓄に走るようでは将来が危うい。

シニア世代をどう活用するかが問われている。長くなった老後は、もはや「余生」とはいえない。21 世紀の日本人に与えられた長い、長い高齢期の時間をいかに社会のために使うかで、日本が超高齢社会を乗り切ることができるかどうかが決まる。「自分のため」ではなく、「他人のため、人々のために」というロータリー精神が改めて見直される時である。

記念品贈呈



森岡会長より茂木正志
会員へ、退会の記念品が贈
呈されました。

3/22付けで三井生命保
険(株)武蔵府中営業部 営
業部長としてご栄転され
ます。

表彰伝達



3/2 (金)、箱岩青少年
奉仕委員会委員長と福島
東稜高等学校を訪問し、
優良インターアクター9
名の方に、認定書と記念
品を贈呈しました。

活動報告



2/27 (火)、福島北RC
創立55周年記念式典・
祝賀会が辰巳屋にて行わ
れ、スポンサークラブと
して花束が贈呈されまし
た。

ニコニコBOX 報告

本日のニコニコBOX投入額 29件 ¥60,000 累計 ¥1,719,000

〈報告〉 丹治 正博 小委員長

森岡 幸江 会長

SMBC日興証券、京佳吾様、入江陸太郎様、RYLA研修会へ
ご参加頂き有難うございます。発表宜しく申し上げます。五
阿弥会員のスピーチ楽しみにしております。

相良 元章 幹事

本日のプログラムは、RYLA研修発表としてSMBC日興
証券(株)福島支店の京様、入江様をお招きしております。若い
方々のパワーを吸収して帰りたいと思います。

茂木 正志 会員

本日が最終の例会参加となります。若輩者の私を温かく迎
えて下さり、本当に感謝しております。3年間、本当にありが
とうございました。

幡 研一 会員

- ①茂木会員の退会残念ですが、ご栄転おめでとうございます。
- ②五阿弥会員の名スピーチに期待して
- ③日興証券の方のRYLA研修報告、ご苦労様です。

五阿弥 宏安 会員

スピーチの機会を与えていただき、ありがとうございます。

靄丸 直久 会員

本日は、当社若手社員2名が、先日のRYLA研修の報告をし
ます。よろしく申し上げます。

菅沼 裕 会員

3月6日、福島民友さんのトップページに弊社で取り組ん

私のひとこと

日比野 恒夫 会員

私の感謝



日頃ロータリアンの方々に当店をお使い頂き誠に
感謝いたします。

当店もおかげさまで30周年を迎える事が出来まし
た。ひとえに皆さまとスタッフのお陰と思っております。
次の40年を目指すためにお客様に喜ばれる料理と店
を目指していきます。今後とも皆さまご指導ご鞭撻よ
ろしく申し上げます。

ありがとうございます。

例会プログラムのご案内

3月29日(木)

12:30 ~ 辰巳屋

通常例会

- PETS報告 浦部博会長エレクト

4月5日(木)

12:30 ~ 辰巳屋

通常例会 ガバナー補佐クラブ訪問

- 「四つのテスト」唱和 ●4月誕生祝い
- 「友」4月号紹介

4月17日(火)

12日(木)から振替

福島北RC合同ゴルフコンペ 9:30スタート「パーシモンCC」

福島北RC合同観桜夜間例会 18:00 ~ 辰巳屋

でいる働きながら、健康作りを掲載して頂きました。五阿弥
会員に感謝いたします。

森川 英治 会員

この度当行の取り組みで、ニツキン賞と地方創生担当大臣
表彰をいただきました。これもひとえに皆様のおかげと感謝
しております。ありがとうございました。

鈴木 勇人 会員

2018シーズンが3月11日にホームで開幕します。ひたむ
きに勝利を目指して頑張ります。福島ユナイテッドFCを引
き続き応援して下さい。福島の元気のために。

加藤 義朋 会員

五阿弥宏安会員のスピーチに期待して。

後藤 洋伸 会員

ソングリーダーお疲れ様です。
本番に向けてガンバッテ下さい。

林 隆壽 会員

三寒四温の季節、くれぐれもご自愛ください。

他クラブ会員より

三宅 喬/土屋敦雄/白岩康夫/反後太
郎/森 洋一/坪井大雄/茂田士郎/熊坂仁美/児玉健夫/
内池 浩/吉田大樹/船本 勝/佐藤良智/佐藤美奈子/佐藤
英典/増子 勉/丹治正博